

## 市民政策コメントにおける意見

No.	要 約
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市役所跡地に音楽ホールを建設してほしい。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>●音楽に特化した施設が少ない。さまざまな演奏に対応できるように、客席数などの規模を検討して欲しい。</li> <li>●リハーサル室、練習室を充実してほしい。</li> <li>●子どもの演奏機会や子育て世代の演奏家も多いことを踏まえ、託児室や子どもの待機室を完備してほしい。</li> <li>●大型楽器は各団体での購入や保管が難しいことを踏まえ、貸出用の楽器や保管スペースの貸出を行ってほしい。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>●既存の施設については、「音の響きが不十分」、「バリアフリー対応が不十分」、「駐車場が不足」といったことを感じている。新たな音楽ホールができることを楽しみにしている。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本方針素案に賛成。更新時期を迎えている対象の4施設は廃止したうえで、複合施設を建設し、人を集中する必要がある。</li> <li>●新しい施設の建設場所は現駅南庁舎が適地。新たな施設には音響環境などの整ったコンサート用小ホールを組み込んでほしい。</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人口減少を踏まえ、県東中部で重複しない独自性のあるホールにしてほしい。舞台床、椅子が収納でき、ライブハウスになる小規模なホールがあるとよい。</li> <li>●1000人規模のホールは県東・中部で市民会館だけであり、1,000人規模のホールには賛成。米子コンベンションセンターのように単層式の可動椅子だとさまざまな利用が増える。</li> <li>●美術機能も賛同するが、年数回のための展示であれば1,000㎡の規模は必要ない。狭いスペースで美術展を分割して開催すべき。ホールの客席を収納した状態で展示するなど、展示方法を工夫すべき。</li> <li>●大学生や高校生の利用を考慮すると駅からのアクセス、駐車場の拡充は必須。収容人数の8割程度の駐車場が確保できることが望ましい。</li> <li>●平日の日中の利用率を考えると、練習室兼会議室を複数設置するのが良い。防音であることは会議室にもメリットとなる。</li> <li>●文化団体にとって施設スタッフの貢献度は大きい。地元のホールスタッフを継続的に雇用・育成してほしい。</li> </ul>
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規模などに関する具体的な提案を基本方針素案に例として記載すべき。</li> <li>●「7おわりに」の冒頭、「再編を進めるにあたっての諸条件が整うためには相当な労力と年月を要する」の「諸条件」や「労力」「年月」などをもう少し記載すべき。</li> <li>●タイムスケジュール案を示し、再編の目標時期を明示することで市民の関心を高め、健全な意見を反映した新たな文化施設に繋がることを期待する。</li> </ul>
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>●1箇所への統合に反対。土日祝日に催しが集中し、駐車場が不足する。文化センター・文化ホールは縮小して残してほしい。</li> <li>●市役所跡地と市民会館の場所に新施設と駐車場を整備するのがよい。</li> <li>●美術関係の施設は、県立博物館を活用してはどうか。</li> <li>●新たな施設は、エレベーターの設置やバリアフリーに対応したトイレの増設のほか、練習室の防音機能の強化、舞台の導線にも配慮した設計などが必要。</li> <li>●利用手続きの簡素化を図ってほしい。使用料金は現状を維持してほしい。</li> <li>●将来的な人口、利用者が減少するに見合った施設ではなく、良いものを作って人を呼ぶ施設づくりの投資をしてほしい。</li> </ul>

8	<ul style="list-style-type: none"> <li>●うるおいのある暮らしに文化芸術は欠かせないものであり、文化施設はとても重要。方針に「文化芸術機能の充実」を位置付けていることは評価できる。</li> <li>●次世代の優れた芸術家や地域の文化芸術活動の担い手の育成を図ることも重要。</li> <li>●新たな施設の規模については、市民ニーズに適したものにしてほしい。音楽は響きが命と言われるので、音楽関係者や専門家の意見を踏まえた音響性能にしてほしい。</li> <li>●少子高齢化と人口減少、技術革新は異次元、速くて大きい変化の時代を迎えている。施設等の規模や使用期間の設定をどのように考え設計するのか、留意しながら進めてほしい。</li> </ul>
9	<ul style="list-style-type: none"> <li>●将来的にコンパクトシティが実現することを前提に、市内の中心市街地に複数ある文化芸術活動の拠点施設を集約し、各々の機能を集約したクオリティーの高い施設を整備してほしい。</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>●舞台がどの座席からも観やすい構造にしてほしい。出演者にも障がい者がいることを想定した設計が必要。</li> <li>●スタジオパフォーマンスや読み聞かせなどの活動にも利用可能な展示室にしてほしい。</li> <li>●フローリングの練習室、舞台と同程度の広さのリハーサル室が必要。</li> <li>●既存のホールからさほど遠くないところであれば、全国大会開催の際に練習会場としての利用ができる。</li> <li>●市民が誇りに思える文化施設ができることを期待している。</li> </ul>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中心市街地の4施設を再編して文化芸術振興の拠点となる新たな施設を整備する方向に賛成。</li> <li>●県外や海外からもアーティストがそのホールで演奏するために来るような音楽小ホールを整備してほしい。</li> </ul>
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>●規模の大きな合唱団は、練習場所の確保やステージの確保が簡単ではない。</li> <li>●複数の機能を合わせ持った市民の拠り所となる施設を整備してほしい。</li> <li>●ホールの規模は、市民会館の1,000人規模、文化ホールの500人規模があればよい。音響の専門家なども入れて検討してほしい。</li> </ul>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>●現市民会館周辺（市役所駐車場跡・旧市役所跡・現市民会館土地）に、音楽小ホール・多目的小ホール・展示ホール・練習室・文化団体交流室・会議棟の機能を持つ新たな文化施設を建設してほしい。</li> <li>（具体的な施設概要）</li> <li>・音楽専用ホール（客席数300 シューボックスorアリーナ形式）</li> <li>・舞台・講演専用ホール（客席数300 プロセニウム形式）</li> <li>・展示ホール（350㎡）×1 ・リハーサル室（200㎡）×1</li> <li>・中練習室(120㎡ 40名以内) ×4</li> <li>・小練習室（15㎡ 4名以内）×8</li> <li>・備品保管倉庫</li> <li>・会議棟（大会議室120㎡ 中会議室90㎡ 小会議室40㎡×2）</li> <li>・文化団体交流室（15㎡×5）</li> <li>・交流フリースペース</li> </ul>
14	<ul style="list-style-type: none"> <li>●小規模な音楽ホールがあれば、発表会や演奏会、コンクール前のステージ練習等、地元の演奏家の活動も活性化する。音楽で活気のある鳥取市になってほしい。</li> </ul>
15	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市内で広い展示壁面のある展示会場としては、県立博物館ととりぎん文化会館があるが、いずれも使用の頻度が高く、個人やグループでの活動による使用が難しい。</li> <li>●新たな施設については、団体による大規模展示から個展まで対応可能な間取りを検討してほしい。単なる「箱」的文化施設、「倉庫化」しない文化活動拠点を建設してほしい。建設場所は、落ち着いた環境がよい。</li> </ul>
16	<ul style="list-style-type: none"> <li>●県庁所在地である鳥取市に音響効果の優れた施設が無い。市役所跡地、現市民会館を新しい文化施設エリアにされるなら音楽に特化した小ホールを整備してほしい。</li> </ul>

17	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中心拠点に市全体の文化芸術活動の拠点としての機能を配置、地域生活拠点のコミュニティセンターに機能を持たせることに同感。</li> <li>●4施設に改修経費を投入する場合、今以上の有効な文化施設としての活用が可能かどうか重要。</li> <li>●福祉文化会館は耐震強度の面から早期に解体し、更地にすべき。会議室機能は他施設で代替が可能。</li> <li>●県東部・麒麟のまち圏域において、1,000席規模の会館の存在は重要。麒麟のまち圏域の文化芸術振興を担う「麒麟のまち文化芸術センター（仮称）」を市民会館の土地に建設すべき</li> <li>●文化センターは、生涯学習センター、子ども科学館、視聴覚ライブラリーのほか、複数の団体の事務所が入り、幅広い年代に対応している。子どもが娯楽的文化を学べるような場としての機能を強化すべき。</li> </ul>
18	<ul style="list-style-type: none"> <li>●作品発表ができる市美展クラスの展示場、水回り整備のある和室、団体間での交流ができるフリースペース、会議室を整備してほしい。</li> <li>●防音機能のある練習場や照明、音響設備などの整った300人程度のホールを整備してほしい。</li> <li>●駐車場確保の観点から、新たな施設は旧市役所跡地に整備してほしい。</li> </ul>
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>●老朽化施設を再編することに賛成だが、統合して多機能多目的な施設を建築するのは避け、目的を明確にした施設を別々に建設してほしい。</li> <li>●鳥取市には音響の良い小規模ホールがない。300～500人規模の音響の良いホールは、演奏者にも聴衆にも好影響を及ぼす。</li> <li>●地域の音楽文化の振興や芸術活動の活性化に寄与し、芸術を愛する地域としての市民の誇りになる。若手演奏者などの育成につながる。</li> <li>●全国の演奏者たちに音響の良さが浸透すれば、多くのコンサートが開催される可能性も高まる。</li> <li>●災害時の避難拠点としての機能は考慮する必要がある。</li> </ul>
20	<ul style="list-style-type: none"> <li>●文化芸術活動に係る新たな動きを取り入れようとする姿勢が感じられない。ポストコロナや多発する自然災害に対応する機能に係る言及がない。</li> <li>●施設の機能・規模等において、縮小に導くものとなっている。</li> <li>●今後の進め方については、概略日程を決めたうえで、進捗管理を行うことが必要。</li> </ul>
21	<ul style="list-style-type: none"> <li>●郊外に施設を整備するのではなく、歩いて暮らせるまちをめざして、街なかに施設や機能を集約すべき。</li> <li>●展示施設は県立博物館の活用を検討してほしい。新たな文化施設はホール中心の施設に集約してはどうか。ホールの規模については、500席規模のホールは興行的には厳しく、ソロや小編成の音楽には大きすぎる。</li> <li>●市の財政に余力があるうちに議論を加速し、4つの施設を集約し新しい文化施設を整備してほしい。量は減らすが高めることで、今の市民にも後世の市民にも評価してもらえると思う。</li> </ul>
22	<ul style="list-style-type: none"> <li>●勤労青少年ホームが廃止されたことにより、練習場所が減ってしまった。新たな施設には利用者の希望や実態にあった防音の練習室を整備してほしい。</li> <li>●吹奏楽コンクールなどの会場となることも見込まれるのである程度の室数が必要。音楽施設の整備が動き出したことに期待している。</li> </ul>

23	<p>●現在の鳥取市には、オーケストラを鑑賞できる大ホールはあっても小編成の音楽に適したホールがない。</p> <p>●理想的な響きの音楽小ホールが整備され、子どもたちの情操を育み、鳥取市が偉大な作曲家の故郷として誇れる街となることを望む。</p> <p>●コンサートの『本番だけ』ではなく、リハーサルや練習の様子も見るができる場があれば、文化振興に繋がり、『行きたくなる施設』になる。子ども連れの家族のための『親子観覧席』を設けてはどうか。</p> <p>●文化施設の周りの景観や敷地のゆとりも重要。湖山池周辺に文化施設ができた場合、大学生をはじめとする若い世代の芸術・文化への関心を促せることも期待できる。</p>
24	<p>●防音機能の練習室・リハーサル室を備えた音楽小ホール(300名程度)を整備してほしい。</p> <p>●市内には多くの演奏家や、音楽愛好家、個人の音楽教室で音楽を学ぶ子どもたちが、美しい音色を奏でるため何百時間の時間を費やして練習をしても、それを再現するホールがないことは鳥取の音楽文化の質の低下につながる。</p> <p>●ホールは演奏者にとっては楽器。良いホールであれば全国から演奏したいと思われ、こちらもアピールすることができる。</p>
25	<p>●県庁所在地である鳥取市に『響き』の良い音楽小ホールがないことは大きな問題。防音の行き届いた練習室・リハーサル室を完備した300人規模の『響き』の良い音楽小ホールが必要。</p>
26	<p>●4施設を統合してひとつの施設にまとめることは疑問。文化関係団体から要望のある機能をすべて含む施設を整備するには広大な土地と駐車場が必要であり、中心市街地では難しい。</p> <p>●市美術展の会場は、やまびこ館や県立博物館を活用すればよい。文化ホールの地下練習室は完全な防音になっていない。防音だけでなく響きの良い練習室やリハーサル室を整備してほしい。</p> <p>●とりぎん文化会館小ホールやわらべ館イベントホールは響きが悪く、合唱の演奏会場としては不向き。市民会館や文化ホールの代わりとなる700～800人が収容できる大ホールと、300人規模の小ホールを整備してほしい。</p>
27	<p>●演奏者にとって演奏する場所の環境は大切。倉吉市や米子市、境港市に音響設備やその他施設（練習室など）が整ったホールがある。</p> <p>●市民が気軽に利用でき、演者が活動しやすい中・小ホールがあることは、鳥取市の文化の活性化につながる。地元で演奏活動がもっとできるようになれば嬉しい。</p>
28	<p>●音響環境の整った300人収容規模のホールをお願いしたい。</p> <p>●競合などにより練習場所の確保には苦勞しており、今回の「中心拠点における新たな施設の整備」には大いに期待している。</p> <p>●中心拠点におけるホール等文化施設の方向性は大変よい。機能のイメージ図がわかりやすい。「期待される効果」は、「現状・課題」に対応できることがうかがえる。特に耐震基準などの「安全性」、全ての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方は重要。</p> <p>●練習スペースは150～200㎡程度のものが2～3室あるとよい。2室に防音設備があれば、3室目は防音でなくてもよい。</p> <p>●財源の確保にはクラウドファンディングも利用してはどうか。市民の合意形成は重要。意見聴取だけでなく、資金面などの協力を求めてもよい。</p>

29	<ul style="list-style-type: none"> <li>●基本方針（素案）に概ね賛成。音響設備の良い室内楽程度の音楽会に最適な小ホール（300人規模）を整備してほしい。室内楽に適した音響のよい音楽堂は希少であり、国内外から優れた演奏家を呼び込むことも可能。</li> <li>●鳥取市にはそのような規模の音響の良いホールがない。これからの人口減少も考え、小さいながら質の高い音楽体験のできる場所は、市民にとっても貴重な文化的コアになる。</li> <li>●県立美術館の開館に伴い、鳥取市でよい芸術作品に出合える機会は減少するので鳥取市美術館が必要。</li> <li>●鳥取市に縁のある芸術家による作品を展示し、市民がそれに触れ、また作品を収納管理できる施設が必要。魅力的な文化都市となるため、音響のよい小音楽堂と美術館を実現してほしい。</li> </ul>
30	<ul style="list-style-type: none"> <li>●大きなホールは梨花ホールで十分だが、高校吹奏楽の演奏会開催も考えると300人規模のホールでは小さい。とりぎん文化会館、県民ふれあい会館が維持されることを前提に、市民会館、文化ホールを維持してほしい。</li> <li>●個人練習用の小さめな練習場の需要も一定数ある。文化ホールの第1練習室程度の広さや、とりぎん文化会館のリハーサル室程度の広さの部屋が5～8部屋あれば文化団体以外の利用も期待できる。</li> <li>●美術系展示会の場所は、県立博物館、文化センター展示室、とりぎん文化会館のほかにも、もう少し展示スペースがあるべき。</li> <li>●駐車場を多く確保することは必須。</li> <li>●とりぎん文化会館のように1カ所に色々な機能があることで知らなかったイベントに触れたり、情報を得ることができる。このような文化芸術の発信地の役割を担う施設を整備してほしい。</li> </ul>
31	<ul style="list-style-type: none"> <li>●鳥取市内で音響の良い小ホールとしては、「日本基督教団鳥取教会」があるが、あくまでも教会行事が優先されるため、催しの会場としては使いづらい。</li> <li>●地域の音楽文化の発展には、大ホールよりも小ホールの重要性が高い。小編成の演奏会を一宗教施設に依存している現状を踏まえ、優れた音響、収容人数100～150人程度の小ホールを新設してほしい。</li> </ul>
32	<ul style="list-style-type: none"> <li>●100～300席規模の音響の優れた小ホールを望む。プロの音楽家を招いて素晴らしい芸術に触れてもらう機会を設けたい。そのためには、音響の良い小ホールが必要。</li> <li>●練習場所の確保も課題。以前は、勤労青少年ホームを練習会場として使用していた。</li> </ul>
33	<ul style="list-style-type: none"> <li>●中心市街地から離れた地区からの施設利用促進策を考えてほしい。自動車に乗れない人に公共交通運賃の割引などの配慮をしてほしい。</li> <li>●拠点施設は出来るだけ一箇所にまとめてほしい。棟を分けるなど、行きやすい雰囲気づくりをしてほしい。</li> <li>●高齢者、初心者が参加しやすい運営システムを考えてほしい。高齢者の健康づくりや認知症防止のために気軽に出かけやすい仕組みを作してほしい。</li> <li>●PRをもっとしてほしい。</li> </ul>
34	<ul style="list-style-type: none"> <li>●30人くらいが集って、学んだり、習ったりすることができる大人の学校のような施設があると良い。高齢者の健康にも良い。</li> <li>●市の中心部に各種の教室があれば通いやすい。カフェも併設されていれば、人々が交流できて豊かに暮らすことができる。</li> </ul>

35	<p>●市内に現存する音響環境の整った音楽ホールは規模的に大きい。ピアノ教室や合唱サークルの発表会、高校などの学校関係の吹奏楽の演奏会など地域に密着した音楽イベントの場として利用しやすい適正規模のホールが欲しい。</p> <p>●市民会館は建築年も古く音響整備が不十分。また、建物自体の老朽化も著しく魅力がない。音響効果の整ったホール施設への建替えを検討してほしい。</p> <p>●音響と防音の整ったリハーサル室、練習室、楽屋を完備してほしい。バリアフリー化により誰でも気持ちよく利用でき、魅力のある誇れる施設を望む。</p>
36	<p>●素案は良くまとまっていてわかりやすい。市民会館、文化ホールは、老朽化などの問題もあり、ずっと使い続けていくのは困難。</p> <p>●コロナ禍の中、家にこもりきりになってしまった高齢者も多かったと聞く。市民の健康の維持の為に、演奏会や展示のできる新しい施設が必要。</p> <p>●子ども達の発表の場となる施設があれば、思い出に残り、郷土を愛する心を育むことにもつながる。</p> <p>●高齢者の医療費削減にもつながる。地域に元気を与え、他の地域との交流にもつながる。</p>
37	<p>●練習場所を探すのに苦労する。いい施設があれば皆に喜んで使ってもらえるし、県外から多くの人に来てもらい音楽活動ができる。鳥取市が音楽でもっと栄えてほしい。</p>
38	<p>●小ホール、控室、練習室を整備してほしい。</p>
39	<p>●練習室の整備、駐車場の確保、車に乗らない高齢者でも行きやすい交通アクセスを検討してほしい。</p>
40	<p>●新たな施設の建設場所は旧市役所跡地が一番良い。パートごとの練習ができるよう、複数の練習室を整備してほしい。</p> <p>●観客と演奏者が一体感を持つことのできる300人規模のホールが欲しい。託児室・専門の保育士が常時あれば子育て中の人も参加しやすい。</p>
41	<p>●練習室を完備した300人規模のコンサートホールを整備してほしい。既存の文化施設は古くて音響も悪く、バリアフリーも行き届いていない。</p>
42	<p>●ファミリーコンサートができるような会場がない。練習室を完備した音響効果の良い小ホールを建設してほしい。</p> <p>●新たな施設の場所は市役所跡地が最も適している。</p>
43	<p>●300人規模の音響のよい小ホールを建設してほしい。30人規模で使用できる鏡付きの練習室も完備してほしい。</p>
44	<p>●音響の整った小・中ホールが交通の便のよい駅周辺にあれば他市町村の人達ももっと音楽やその他の文化芸術に触れることが容易になる。練習室も不足しており、次世代の演奏家を育てるためにもぜひ整備してほしい。</p>
45	<p>●地域住民のニーズが多様化する現在、一つの施設で住民のコンセンサスを得ることはできない。高層化で床面積を増やし、できる限りの要望を取り入れて建設する複合施設を提案する。例えば、1F:マルシェタウン、2、3F:商業施設、4、5F:オフィスや美術館、小ホール、シネマ、上層階は住宅、最上階:展望室、グルメストリートなど。</p> <p>●民間資金を広く集めることで財政負担の少ない開発をめざすべき。</p>
46	<p>●既存施設を集約して新たな施設を建設した方がよい。新たな施設を建築するには、魅力ある外観で充実した設備を備えたものにしてほしい。現代を代表する設計者の選任が必要。「鳥取のあの建物」と内外から高い評価を受けることもでき、鳥取の誇りになる。</p> <p>●場所は市の中心部に近い場所が望ましい。常時市民の目に触れ、身近に感じられることが、存在価値を高め、充実した運営にも繋がる。</p> <p>●県立美術館が倉吉市に建設されたことを踏まえ、今後は音楽、演劇関係に方向性を定め、環境整備に力を注いでほしい。規模は大きくなくても音響に特化した最高の施設を持つべき。</p>

47	●親子観覧室があり、小さな子どもも気軽に音楽に親しむことができる音楽ホールと練習場所を建設してほしい。
48	●耐震補強が完了している市民会館を残したうえで、駐車場、緑地スペースを十分にとり地域に開放し、他施設も取り壊して緑地などとして地域に開放してはどうか。
49	<p>●新たに施設の整備により、次世代への財政負担を増やすことには反対。既存施設を連携して使用すれば事足りるのでは。既存施設の大規模改修にも費用がかかっている。新たな施設を建設するほど鳥取市に財源があるのか疑問。音楽ホールの設計施工は大手ゼネコン等に限定されるため、市内の企業にとってのメリットは少ないのでは。</p> <p>●新築より既存施設の改修の方が歴史的価値を感じられるのでは。</p>